

未来を守るためには 今が考動を起こすとき 全方位で活動を加速させます



生産技術 センター長

今枝 勝行

日本政府が2024年5月に公表した、第6次環境基本計画では、2030年までを、地球が今直面している気候変動、生物多様性の損失、汚染という3つの課題を解決するための「勝負の10年」と位置付けられました。私も、近年の夏場の毎日のように続く猛暑や、頻発する集中豪雨など、生活の中でも気候の変化を感じるようになってきており、これからの数年が、今の地球を守るかのターニングポイントになると考えています。

この大きな課題を乗り越えるには、環境基本計画にも書かれているように社会変革を早急に行う必要があります。そして、そのためには、資源やエネルギーを多く使い、環境に負荷を与えている我々企業が先陣を切って変わらないといけません。そこで、東海理化では、2030年、また、その先を見据えて、進む方向を明確にするために環境ポリシーの改訂を行いました。このポリシーの中で大切にしていることは、「社会全体で輪をつくって取り組んでいく」そのために「社員全員が地球の将来を考えて考動する」ということです。一人ひとりができることを考え、お客さまや仕入先さま、地域と協力して、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブの全方位での取り組みを推進していきます。また、低CO₂樹脂材料や外来種駆除剤の開発など、環境技術の追求により、自社だけでなく社会全体で環境を豊かにする新たな領域へのチャレンジもスタートしています。

私たちが今考動を起こせば未来は変えられる、という信念をもって、「TRY for the future」を合言葉に、持続可能な社会の実現に向けて活動をさらに加速させていきます。